

令和8年7月31日

各報道機関文教担当記者 様

文部科学省「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」に採択 新たな研究支援拠点「サイエンスコモンズ」を構築

金沢大学は、文部科学省「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）※」において、「EPOCH金沢大学サイエンスコモンズを基軸とした研究基盤刷新プロジェクト」が採択されました。

本学のプロジェクトの中心となるのが、新たに構築する研究基盤共創プラットフォーム「サイエンスコモンズ」です。サイエンスコモンズでは、AI、研究データ、研究設備、専門人材を一体的に活用し、研究データ・設備・機器の最大効率化を図ります。さらに、研究支援、研究トレーニング、人材育成などを一体的に提供します。

そして、金沢大学で構築した仕組みを北陸ファシリティ・技術人材ネットワークに発展させ、連携大学である富山大学、福井大学、北陸先端科学技術大学院大学と共に、北陸地域の大学や研究機関等が持つ研究設備・専門人材・知見をつなぎます。

本学は、EPOCH事業を契機に、北陸地域から全国へ展開できる新しい研究支援モデル、さらには研究環境改革モデルの構築を目指します。

【和田隆志学長コメント】

新たに構築するプラットフォームは、研究者、大学院生、研究開発マネジメント人材、事務職員が一体となって運営し、研究データや機器設備の利活用において最大効率化を図るものです。連携大学である富山大学、福井大学、北陸先端科学技術大学院大学をはじめ、北陸地域の研究・教育機関等と緊密に連携しながら、地域全体の研究力向上と研究環境の高度化を推進し、国際的に展開してまいります。金沢大学は、本事業を基盤として、「未来知」により新たな価値を創造し、我が国の研究力強化と社会の発展に貢献したいと考えています。

※EPOCH：我が国の研究力強化に向けて、若手研究者を含む全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現することを目的とした10年間（予定）の事業。研究者が研究に専念できる時間の確保、研究設備・機器の共用・高度化、研究データの活用、技術職員やURA等による支援体制の強化を進める。

参照：科学技術振興機構Webサイト <https://www.jst.go.jp/program/epoch/index.html>

【事業内容の問合せ先】

金沢大学 副理事（サイエンスコモンズ担当）
長谷川 浩
TEL：076-264-4792
E-mail: hhiroshi@se.kanazawa-u.ac.jp

【広報担当】

金沢大学 研究推進部研究支援課長 小林
TEL：076-264-6092
E-mail: kenkyushien-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学が中核となり全国・世界へ展開する研究基盤の刷新モデル

金沢大学の強みと実績

トップダウン型
迅速な経営判断と組織改革

コアファシリティ化の先駆的実績
コアファシリティ構築支援プログラム:S評価(中間)

広域リージョン連携の実現
県・機関の境を超えた共用体制の構築

実効的なデータ利活用体制
NIIと連携・全国を牽引するデータ基盤の確立

WPI事業・先端分析機器開発
未踏ノ領域を開拓する世界的実績

主な KPI指標

- ・産学の共創企画と包括連携協定
- ・共用を促すインセンティブ設計・スペース集約
- ・競争的研究費の使途の変容促進 等

政策目標の達成

研究時間割合 50%確保
研究設備・機器の共用化率 30%以上
財務自走化の仕組み構築

設備・人材・データを統合した研究基盤の重層化

① 大学・国産メーカーが連携した先端機器開発

先端計測機器開発 ⇄ 汎用的共用機器の開発 ⇄ 機器の運用・保守
国産・地域メーカーとの共創企画 主要メーカーとの包括協定

② 全国を先導するコアファシリティ構想—サイエンスコモンズ—

サイエンスコモンズ創設 ⇄ 技術職員・URA・事務職員 ⇄ AI&データfor研究基盤
「活用・研鑽」の共用化 研究支援の三位一体改革 事務・財務の最大効率化
設備・機器の最大効率化 学長戦略室直下で強力に推進

③ 地域・広域・国際の3層ネットワークの構築—北陸から世界へ—

「地域」の一体的刷新 → 「広域」：全国への展開 → 「国際」の日常化
北陸ファシリティ・人材ネットワーク 研究基盤協議会・地域ネットワーク 世界視野の連携・展開
「研究基盤ルーブリック」の提唱・活用